

# 環境活動Highlight

## 米国蓄電池会社UETへの出資

2015年12月、米国の大容量定置型蓄電池の研究開発・製造を手掛ける「UniEnergy Technologies LLC (UET)」に出資しました。UETは米国エネルギー省パシフィック・ノースウェスト国立研究所 (PNNL) で新型電解液を発明した研究者2名が2012年に設立したベンチャー企業です。

UETが開発した次世代バナジウム電池は、現状の蓄電技術の中でも「長時間放電が可能」「大容量化が容易」「寿命が長い」といった特徴があり、電解液のエネルギー密度を大幅に高めることで、これまでの技術では弱点とされていたバナジウム電池の「省スペース化」に成功しています。

米国では、広い国土に張り巡らされた送配電網を維持し続けるコストの増加や、政府の推進による再生可能エネルギー発電の拡大に伴い、天候などに左右されやすい電力の供給を安定させる大型蓄電池の導入が進んでいます。また、ピーク時の電力使用量に従って追加課金されるデマンドチャージ<sup>\*1</sup>を抑制するために、商業ビルなどの大規模電力需要者が大型蓄電池を活用して、電力料金を低減させる動きも活発化しています。これらを背景に、米国の大型蓄電池の導入容量は2021年に2015年比で約9倍にまで拡大すると予測

されています<sup>\*2</sup>。

オリックスは、日本国内での再生可能エネルギーによる発電や電力小売事業などに加えて、海外においてもエネルギー事業の拡大を図っており、今後も需要拡大が予測される米国市場での拡販を図るとともに、アジアや欧州でも積極的に事業を展開していきます。

<sup>\*1</sup> 米国の電気料金制度でピーク需要に対して付加的な料金を加算される仕組み。電気料金合計の30～70%を占めるため、削減ニーズが高い。

<sup>\*2</sup> 出典：GTM Research社「U.S. Energy Storage Monitor / June 2016」

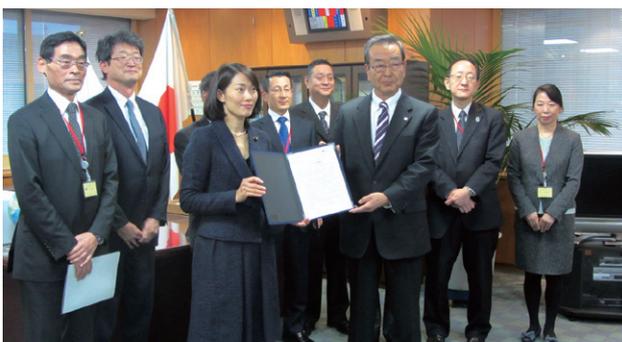


大型蓄電池と現地社員

## J-CLPの活動参加

オリックスは、2014年より日本気候リーダーズ・パートナーシップ (J-CLP) にメンバー企業として加盟しています。加盟企業は、気候変動を“社会やビジネスの安定を脅かす重大なリスク”と捉え、持続可能な脱炭素化の実現を目指し、率先して実行することを求められています。

2015年の活動は、12月に開催されたCOP21を中心に、メンバー企業とともに環境大臣への要望書の提出、有識者・団体との対話、カーボンプライシングの勉強会などを実施しました。それらの活動によって得られる情報は、オリックスにとってもビジネス機会の創出につながると考えています。



丸川環境大臣(当時)へCOP21に向けた要望書をJ-CLPのメンバー企業とともに提出

## 国内最大規模の自家消費用 カーポート型太陽光発電設備の販売

オリックスは2016年3月、三菱地所・サイモン株式会社(東京都千代田区)が運営する「あみプレミアム・アウトレット」の場内駐車場の一部に、最大出力1MWのカーポート型太陽光発電設備を設置しました。

三菱地所・サイモン様は太陽光発電システムの電力を全て自家消費とすることで、従来と比べ年間約580t<sup>\*</sup>のCO<sub>2</sub>削減が可能となりました。

<sup>\*</sup> 一般社団法人太陽光発電協会 (JPEA) 表示ガイドライン平成27年度版より。電気1kWhを作るときに排出されるCO<sub>2</sub>の量を505.5gとして試算。



カーポート型太陽光発電設備

## 21世紀金融行動原則への署名

オリックス、オリックス銀行、オリックス生命保険は、「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則(21世紀金融行動原則)」の主旨に賛同し、署名しています。



## カーボン・オフセット(伊勢志摩サミット)

オリックスは、2016年5月に開催されたG7伊勢志摩サミットにおいて、参加者の移動や宿泊などのエネルギー消費に対し、50t-CO<sub>2</sub>のカーボン・オフセットに協力しました。



## オリックス宮内財団の取り組み

オリックスグループでは、企業活動だけではカバーしきれない社会福祉、将来を担う子ども・青少年の支援、音楽・文化芸術などの分野に貢献するためにさまざまな支援活動を継続的に行っています。



北海道・道民の森で行われている植樹体験教室

その活動の1つとして、2015年10月から2016年3月にかけて、全国5カ所で地域子どもたちを招待し、植樹体験や自然体験教育などの環境保全活動を実施しました。オリックスグループの役職員やその家族もボランティアとして参加し、参加者が一体となって地域に貢献することができました。

## 環境保全活動

### 沖縄サンゴ礁再生プロジェクト

サンゴ礁が持つ高い生物多様性の保持能力を守り、美しい海を次世代へ残すため、オリックス不動産は有限会社海の種および沖電開発株式会社と連携し、2008年から沖縄サンゴ礁再生プロジェクト[SANGO ORIX]を行っています。現在も、沖縄県の海域でサンゴの移植活動およびサンゴ礁の成長状況などの確認調査を含めた保全・再生活動を続けています。これまでに9,600本のサンゴを移植しました。合計で10,000本の移植を予定しています。



### えのすい eco

「新江ノ島水族館」(神奈川県藤沢市)は、生物に関する生態学と環境を考える活動の2つの側面から独自の環境活動「えのすい eco」に取り組んでいます。相模湾の生物や環境の多様性を伝える展示のほか、磯の生物やクラゲを観察・調査する体験プログラムなど、生物の生態を楽しく学べる場を提供しています。また、毎月第三日曜日には「えのすい ecoデー」を開催し、ビーチクリーン活動やエコキャップ回収運動などを実施しています。



### マングローブ植樹プロジェクト

ORIX METRO Leasing and Finance Corporation(フィリピン)は、台風による被害を受けたルソン島サン・ミゲル湾沿いのCagsao地区で、2012年よりマングローブの植樹活動を行っています。年2回以上行っている活動では1回に10万本の苗木を植え付け、植樹には社員だけでなく、行政や学生も参加しています。マングローブの植樹は、高波や土壌の浸食被害から地元の人々を守るだけでなく、豊かな海の生態系を育むことにもつながっています。

